

# CASBEE® 名古屋

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システム (使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0))

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)大有建設株式会社 本社	階数	地上3F
建設地	名古屋市中区金山五丁目1601番、1602番の一部	構造	RC造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	150 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,700 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年6月 予定	評価の実施日	2025年5月7日
敷地面積	1,336 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	816 m <sup>2</sup>	確認日	2025年5月7日
延床面積	2,152 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 3.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	66%
③上記+②以外のオンサイト手法	66%
④上記+オフサイト手法	66%

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.9**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.9

音環境	3.8
温熱環境	4.0
光・視環境	3.5
空気質環境	4.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.0

機能性	4.4
耐用性・信頼性	3.5
対応性・更新性	3.8

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.0

生物環境	4.0
まちなみ・景観	4.0
地域性・アメニティ	4.0

**LR のスコア = 4.0**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.8

建物外皮の熱負荷	5.0
自然エネルギー	4.0
設備システム効率化	5.0
効率的運用	4.5

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

水資源保護	3.0
非再生材料の使用削減	3.7
汚染物質回避	3.9

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

地球温暖化への配慮	4.3
地域環境への配慮	2.6
周辺環境への配慮	3.2

3 設計上の配慮事項		その他
<b>総合</b> 外断熱による外皮性能の向上と高効率機器の採用により、建物の快適性と環境負荷の両面に配慮した計画とした。また、豊かな植栽計画により景観への配慮も行ったオフィスビルとした。		エネルギーモニターによる、電気使用量や太陽光発電量の可視化を行う計画とした。
<b>Q1 室内環境</b> 高断熱ペアガラスを採用し、執務室の空調を床吹き出しにするなど温熱環境に配慮した。執務室の間仕切り壁をガラスとし、解放感のある明るい作業環境となる様に配慮した。	<b>Q2 サービス性能</b> ゆとりのある広さと天井高を確保した執務空間を計画した。明快な設備ルートとし、維持管理と更新性に配慮した。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 豊かな植栽計画と、壁面位置の後退により周辺環境に調和がとれる計画とした。室外機を道路から見えない位置に配置して周囲の景観に配慮した。
<b>LR1 エネルギー</b> アースチューブを採用して自然エネルギーの活用を行った。高効率の空調機器やLED照明を導入し、建物の省エネルギー化を図った。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> あいち認証材の製品を採用した。仕上材にリサイクル資材を積極的に採用し、CO <sub>2</sub> 排出量低減に配慮した。	<b>LR3 敷地外環境</b> LCCO <sub>2</sub> 排出量の抑制により地球温暖化への配慮を行った。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい

### 重点項目スコア・結果シート

(仮称)大有建設株式会社 本社

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>1. 温暖化対策</b>				<b>4.5</b>
LR1	エネルギー	4.8	0.4	/
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.3	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
<b>2. 自然共生</b>				<b>3.8</b>
Q3.1	生物環境の保全と創出	4.0	0.09	/
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	有	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
<b>3. 循環型社会</b>				<b>3.5</b>
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	/
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.7	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

### 結果

#### 1. 温暖化対策

評価点 = 4.5



#### 2. 自然共生

評価点 = 3.8



#### 3. 循環型社会

評価点 = 3.5



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。